

第 2 節 現 況

第 1 河川の汚濁状況

1 環境基準等の達成状況

平成 4 年度における府域の河川水質調査は、公共用水域の水質測定計画（第 3 節第 6・1「公共用水域の水質測定計画」参照）に基づき 9 8 河川 1 3 8 地点で実施した。

(1) 健康項目

カドミウム、シアン、有機リン、クロム（6 価）、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、PCB については、近木川下流の近木川橋でクロム（6 価）が、1 回、基準値を超えて検出された以外は、すべての河川で、環境基準を達成していた。

また、水質環境目標が定められているトリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンについては、今井戸川の大和川合流直前でトリクロロエチレンが、恩智川の住道新橋及び伊勢路川の泉北 2 号線前でテトラクロロエチレンが、それぞれ 1 回、目標値を超えて検出された以外は、すべての河川で水質環境目標を達成していた。

なお、健康項目について基準値を超えた検体数（m）の調査対象検体数（n）に対する割合（m/n）は表 2-6-4 に示すとおりである。

(2) 生活環境項目

生活環境項目のうち河川の代表的な汚濁指標である生物化学的酸素要求量（以下「BOD」という。）について、環境基準の達成状況をみると、全 7 3 河川水域のうち、3 6 河川水域が環境基準を達成しており、達成率は 4 9. 3 % である（表 2-6-5、図 2-6-1～2）。

(3) 特殊項目等

府の定める特殊項目等に係る調査結果は巻末資料表 4-7 のとおりである。

表 2-6-4 河川の健康項目の基準値を超えた割合

| 区分 年度 | 調査対象検体数（n） | 基準値を超えた 検体数（m） | 割 合（m/n） |
|----------|------------|-------------------|----------|
| 昭和 4 6 | 4,400 | 79 | 1.8 (%) |
| 6 3 | 6,289 | 0※ | 0 |
| 平成 元 | 6,295 | 0※ | 0 |
| 2 | 7,365 | 2※ | 0.03 |
| 3 | 7,430 | 2※ | 0.03 |
| 4 | 7,970 | 4※ | 0.05 |

- (注) 1 ※印は総水銀を除く。
2 平成 2 年度以降は、水質環境目標に係る数値を含む。

総水銀

| 年度 | 区分 | 調査対象検体数 | 0.0005 mg / ℓ を 超えた検体数 | 環境基準不適合地点数 |
|------|----|---------|---------------------------|------------|
| 昭和50 | | 752 | 8 | 0 |
| 63 | | 1,142 | 1 | 0 |
| 平成元 | | 1,148 | 0 | 0 |
| 2 | | 1,148 | 0 | 0 |
| 3 | | 1,147 | 3 | 0 |
| 4 | | 1,222 | 1 | 0 |

(注) 総水銀についての環境基準の適否の判定は、年間の測定値が0.0005mg/ℓを超える検体数が調査対象検体数の3.7%以上である場合を不適とする(昭和49年12月23日付け環水管第182号)とされたので別表に掲げた。

表2-6-5 河川の環境基準(BOD)の達成状況

| 年度 | 項目 類型 (基準値 mg/ℓ) | 昭和63 | | 平成元 | | 2 | | 3 | | 4 | |
|-----------|---------------------------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| | | 達成水域数 | 達成率(%) | 達成水域数 | 達成率(%) | 達成水域数 | 達成率(%) | 達成水域数 | 達成率(%) | 達成水域数 | 達成率(%) |
| A (2) | | 8 | 66.7 | 8 | 66.7 | 10 | 83.3 | 7 | 58.3 | 10 | 71.4 |
| | | 12 | | 12 | | 12 | | 12 | | 14 | |
| B (3) | | 4 | 21.1 | 5 | 26.3 | 7 | 36.8 | 6 | 31.6 | 6 | 30.0 |
| | | 19 | | 19 | | 19 | | 19 | | 20 | |
| C (5) | | 2 | 50.0 | 2 | 50.0 | 2 | 50.0 | 2 | 50.0 | 13 | 68.4 |
| | | 4 | | 4 | | 4 | | 4 | | 19 | |
| D (8) | | 3 | 50.0 | 4 | 66.7 | 4 | 66.7 | 5 | 83.3 | 1 | 25.0 |
| | | 6 | | 6 | | 6 | | 6 | | 4 | |
| E (10) | | 13 | 56.5 | 13 | 56.5 | 13 | 56.5 | 14 | 60.9 | 6 | 37.5 |
| | | 23 | | 23 | | 23 | | 23 | | 16 | |
| 合計 | | 30 | 46.9 | 32 | 50.0 | 36 | 56.3 | 34 | 53.1 | 36 | 49.3 |
| | | 64 | | 64 | | 64 | | 64 | | 73 | |

図2-6-1 府下河川の環境基準と水質（BOD75%水質値）の概況

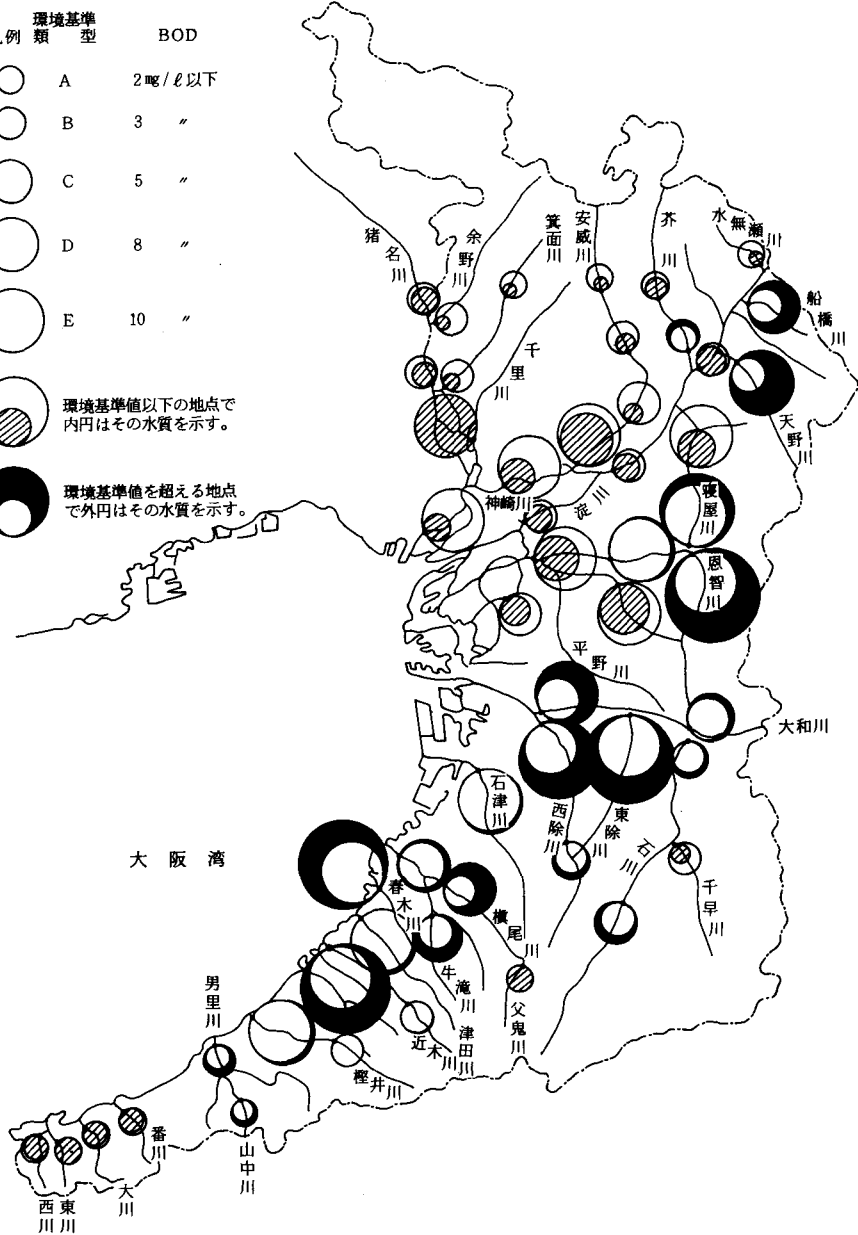
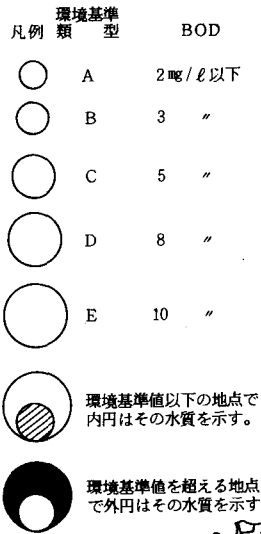
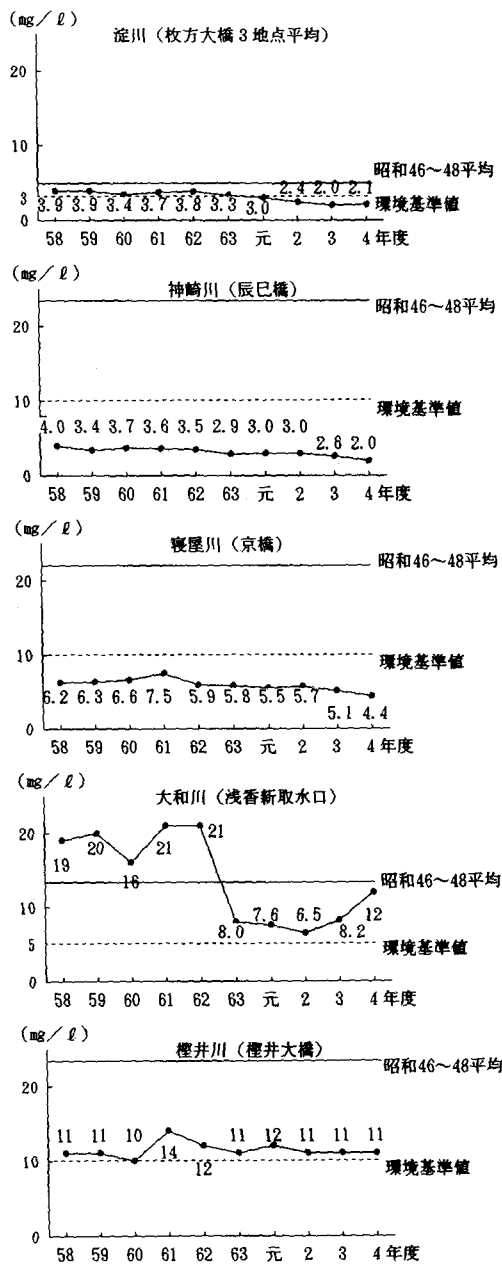


図2-6-2 府下主要河川における水質の経年変化 (BOD年平均値)



2 水域別の汚濁状況

(1) 淀川水域

ア 水域の概況

淀川は京都府八幡市付近において、桂川及び木津川を合して、大阪府域へ流入している。府域の上流部では、左岸から船橋川、穂谷川、天野川、右岸から桧尾川及び芥川等の支川を合し、中流から下流部にかけては、寝屋川、神崎川、大川及び正蓮寺川に浄化用水として、その豊富な水量の一部を供給している。淀川は京阪神地域の住民約1,300万人の水源となっている大阪の代表的な河川である。

イ 水質の現況

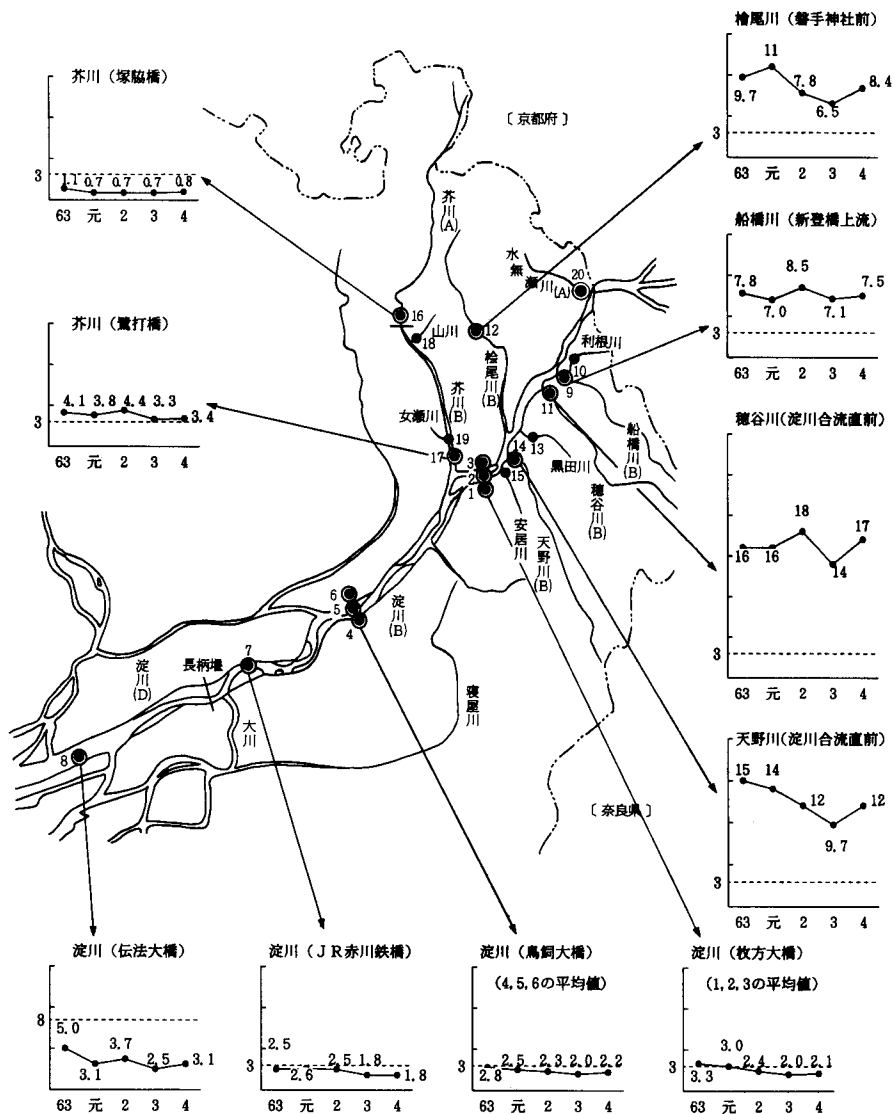
- (7) 健康項目については、すべての測定地点で環境基準等を達成している。
- (イ) 生活環境項目のうちBODについてみると、淀川本川では、枚方大橋等4か所の測定地点すべてで環境基準を達成している。
- 支川については、芥川上流（塚脇橋）、水無瀬川（名神高速道路高架橋下）を除いて、いずれも環境基準を達成していない（表2-6-6、図2-6-3、巻末資料表4-1）。

表2-6-6 淀川水域のBODに係る環境基準達成状況

| 河川 | 測定地点 | BOD (平均値) mg/l | 環境基準の達成状況 | | |
|--------------------------|----------------|----------------------|-----------|-------|----|
| | | | 類型 | m/n値 | 適否 |
| 淀川下流(1) (京都府界から長柄堰まで) | 枚方大橋 | 2.1 | B | 1/12 | ○ |
| | 鳥飼大橋 | 2.2 | | 2/12 | |
| | JR赤川鉄橋 | 1.8 | | 0/12 | |
| 淀川下流(2)(長柄堰より下流) | 伝法大橋 | 3.1 | D | 1/12 | ○ |
| 芥川(1)(京都府界から塚脇橋まで) | 塚脇橋 | 0.8 | A | 0/12 | ○ |
| 芥川(2)(塚脇橋より下流) | 鷲打橋 | 3.4 | B | 7/12 | × |
| 桧尾川(全域) | 磐手神社前 | 8.4 | B | 11/11 | × |
| 穂谷川() | 淀川合流直前 | 17 | B | 12/12 | × |
| 船橋川() | 新登橋上流 | 7.5 | B | 11/12 | × |
| 天野川(奈良県界より下流) | 淀川合流直前 | 12 | B | 12/12 | × |
| 水無瀬川(全域) | 名神高速道路 高架橋下 | 0.5 | A | 0/12 | ○ |

(注) 環境基準に対する適否の判定は、基準値を超える検体数(m)の調査対象検体数(n)に対する割合(m/n)が25%以下であるものを適合(○)としている(以下表2-6-7~11について同じ。)

図2-6-3 淀川水域の水質測定地点及びBOD年平均値の推移



- (注) 1 ●は環境基準点、●は準基準点を示し、数字は測定地点番号(巻末資料表4-1~6に同じ。)を示す。
 2 グラフ中の破線は環境基準値を示す。
 3 グラフの縦軸はmg/l、横軸は年度を表す。
 4 この(注)は、以下図2-6-4~8について同じ。

(2) 神崎川水域

ア 水域の概況

神崎川は摂津市の一津屋地点において淀川から分岐し、安威川及び兵庫県境を流れる猪名川を合して大阪湾へ流入している。

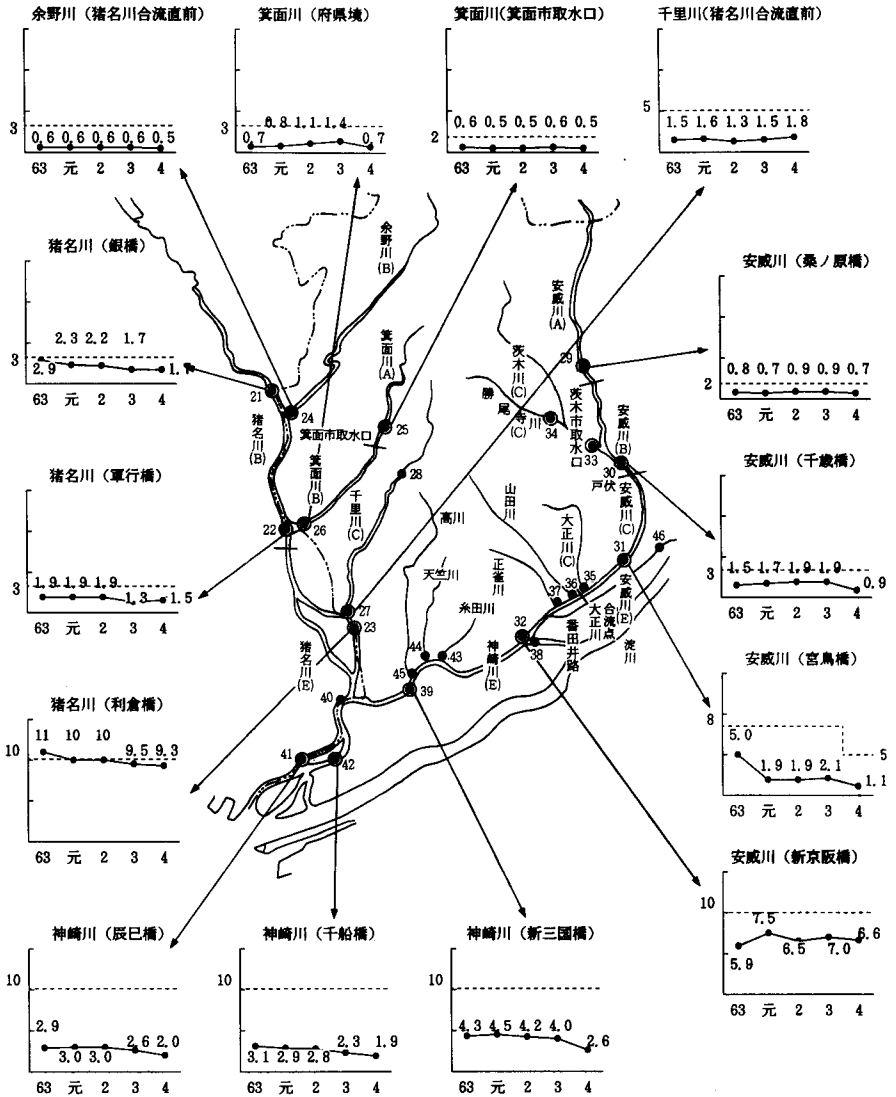
イ 水質の現況

- (7) 健康項目については、すべての測定地点で環境基準等を達成している。
- (4) 生活環境項目のうち、BODについてみると、安威川、猪名川及び神崎川とも、横ばいの傾向を示しており、勝尾寺川（中河原橋）を除いてすべての測定地点で環境基準を達成している（表2-6-7、図2-6-4、巻末資料表4-2）。

表2-6-7 神崎川水域のBODに係る環境基準達成状況

| 河 川 | 測 定 地 点 | BOD (平均値) mg/ℓ | 環 境 基 準 の 達 成 状 況 | | |
|--------------------------|---------|----------------------|-------------------|------|-----|
| | | | 類 型 | m/n値 | 適 否 |
| 安威川上流（茨木市取水口より上流） | 桑ノ原橋 | 0.7 | A | 0/12 | ○ |
| 安威川下流(1)（茨木市取水口から戸伏まで） | 千歳橋 | 0.9 | B | 0/12 | ○ |
| 安威川下流(2)（戸伏から大正川合流点まで） | 宮鳥橋 | 1.1 | C | 0/12 | ○ |
| 安威川下流(3)（大正川合流点より下流） | 新京阪橋 | 6.6 | E | 0/12 | ○ |
| 猪名川上流（箕面川合流点より上流） | 銀橋 | 1.7 | B | 0/12 | ○ |
| | 軍行橋 | 1.5 | | 0/12 | ○ |
| 猪名川下流（箕面川合流点より下流（瀬川を含む）） | 利倉橋 | 9.3 | E | 2/11 | ○ |
| 神崎川（安威川、猪名川を除く神崎川） | 新三国橋 | 2.6 | E | 0/12 | ○ |
| | 千船橋 | 1.9 | | 0/12 | ○ |
| | 辰巳橋 | 2.0 | | 0/12 | ○ |
| 余野川（全 域） | 猪名川合流直前 | 0.5 | B | 0/12 | ○ |
| 箕面川(1)（箕面市取水口より上流） | 箕面市取水口 | 0.5 | A | 0/12 | ○ |
| 箕面川(2)（箕面市取水口から兵庫県界まで） | 府 県 境 | 0.7 | B | 0/12 | ○ |
| 千里川（全 域） | 猪名川合流直前 | 1.8 | C | 0/12 | ○ |
| 茨木川（全 域） | 安威川合流直前 | 2.0 | C | 0/12 | ○ |
| 大正川（全 域） | 安威川合流直前 | 3.5 | C | 2/12 | ○ |
| 勝尾寺川 | 中河原橋 | 5.0 | C | 5/12 | × |

図 2 - 6 - 4 神崎川水域の水質測定地点及びBOD年平均値の推移



(3) 寝屋川水域

ア 水域の概況

大阪の東部に源を発する寝屋川は途中、寝屋川市太間地点で淀川から浄化用水の導入を受け、さらに恩智川及び第二寝屋川を合して大川に流入している。

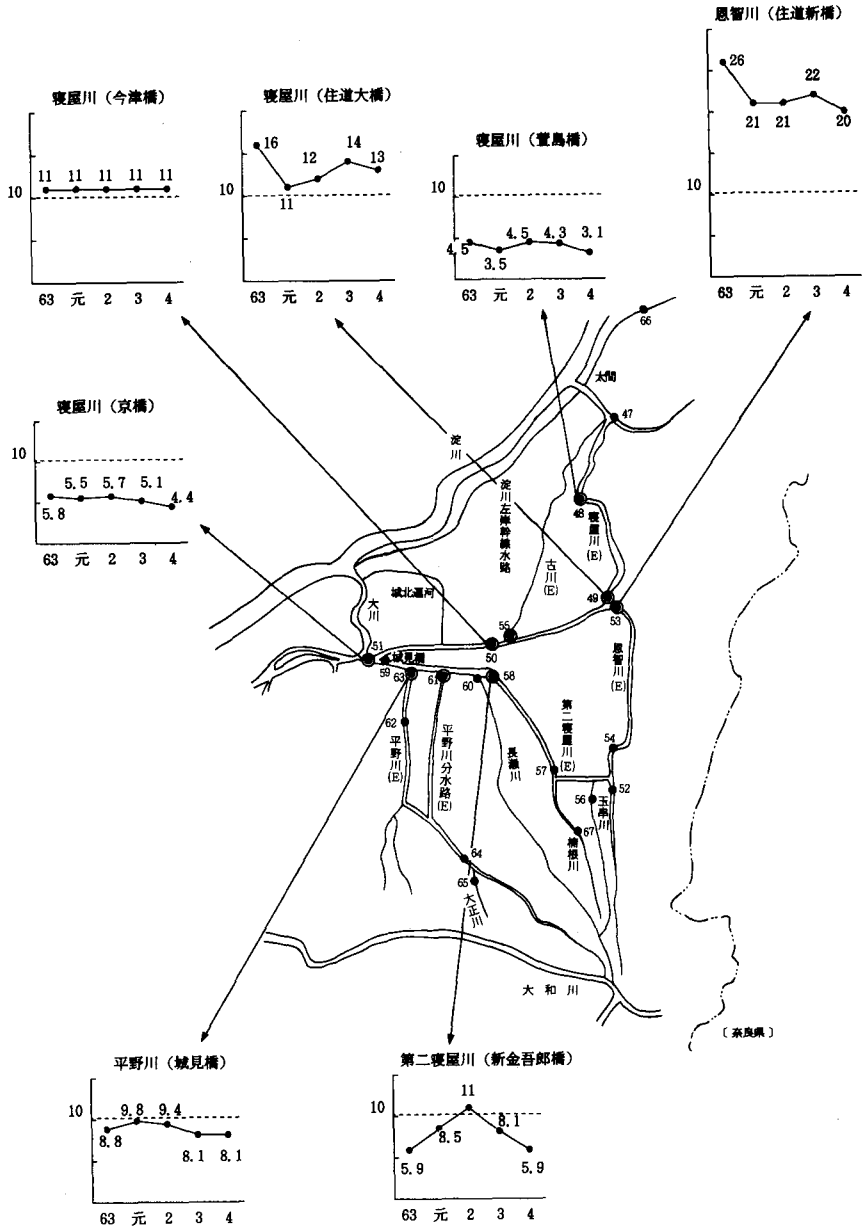
イ 水質の現況

- (ア) 健康項目については、恩智川の住道新橋でテトラクロロエチレンが $0.39\text{mg}/\ell$ ($m/n=1/6$ (n :測定回数、 m :水質環境目標を超えた回数))検出されたが、その他の項目はすべての測定地点で環境基準等を達成している。
- (イ) 生活環境項目のうちBODについてみると、寝屋川本川では、萱島橋、京橋で環境基準を達成しているが、住道大橋、今津橋では、環境基準を達成していない。
- 支川については、恩智川(住道新橋)、古川(徳栄橋)を除いて環境基準を達成している。(表2-6-8、図2-6-5、巻末資料表4-3)

表2-6-8 寝屋川水域のBODに係る環境基準達成状況

| 河 川 | 測 定 地 点 | B O D (平均値) mg/ℓ | 環 境 基 準 の 達 成 状 況 | | |
|-----------------|-----------|------------------------------------|-------------------|---------|-----|
| | | | 類 型 | m/n 値 | 適 否 |
| 寝 屋 川 (全 域) | 萱 島 橋 | 3.1 | E | 0/12 | ○ |
| | 住 道 大 橋 | 13 | | 5/12 | × |
| | 今 津 橋 | 11 | | 5/12 | × |
| | 京 橋 | 4.4 | | 0/12 | ○ |
| 恩 智 川 (全 域) | 住 道 新 橋 | 20 | E | 11/12 | × |
| 古 川 (全 域) | 徳 栄 橋 | 11 | E | 5/12 | × |
| 第 二 寝 屋 川 (全 域) | 新 金 吾 郎 橋 | 5.9 | E | 0/12 | ○ |
| 平 野 川 (全 域) | 城 見 橋 | 8.1 | E | 2/12 | ○ |
| 平野川分水路(全域) | 天王田大橋 | 5.3 | E | 0/12 | ○ |

図 2 - 6 - 5 寝屋川水域の水質測定地点及びBOD年平均値の推移



(4) 大阪市内河川水域

ア 水域の概況

大阪市内河川は、淀川が毛馬洗堰から分流した大川、堂島川及び安治川とこれから分流する土佐堀川、東横堀川、道頓堀川、木津川及び尻無川と、淀川から高見揚水樋門を経て浄化用水を受けている正蓮寺川、六軒家川及び南西部の住吉川等からなっており、流域はほとんど下水道整備地域となっている。

イ 水質の現況

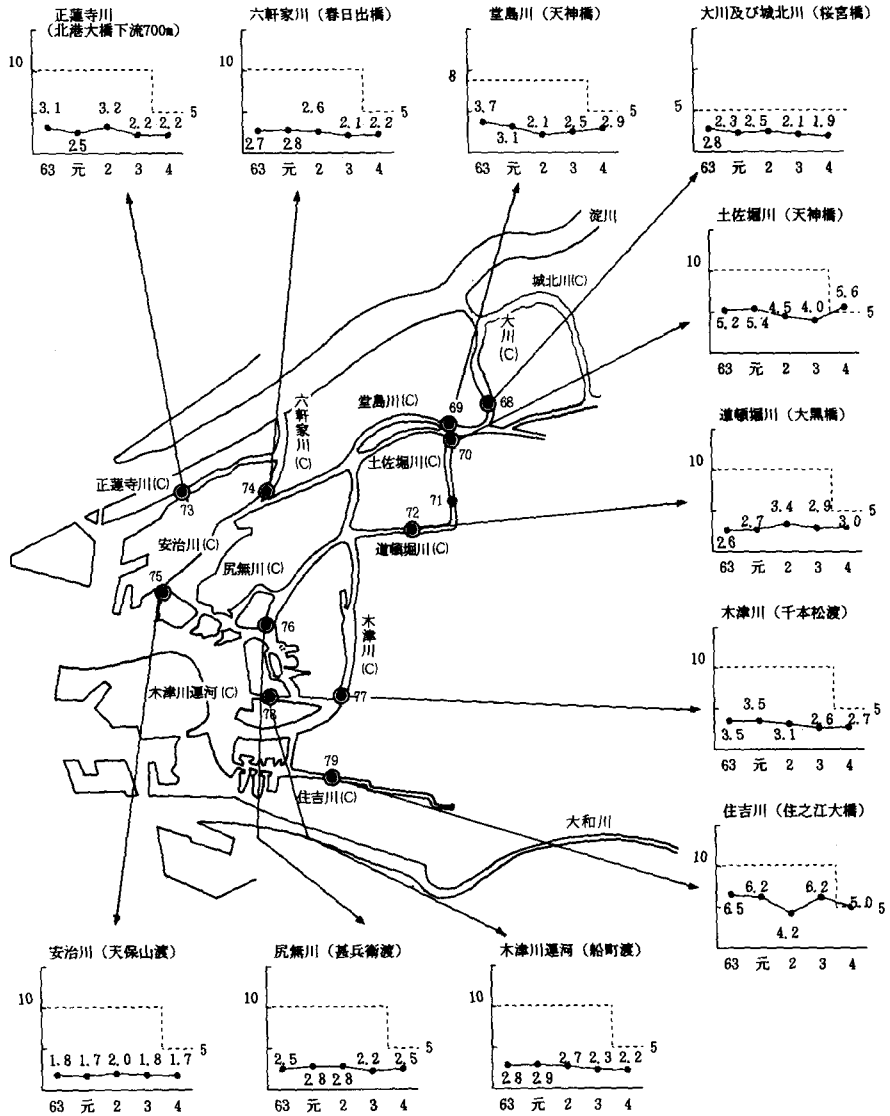
(7) 健康項目については、すべての測定地点で環境基準等を達成している。

(イ) 生活環境項目のうちBODについてみると、大阪市内河川の水質は、河床のヘドロのしゅんせつ及び水門操作による浄化水の導入等により改善が進んでいるが、平成4年2月に類型指定を見直した結果、土佐堀川（天神橋）及び住吉川（住之江大橋）で環境基準を達成しなかった（表2-6-9、図2-6-6、巻末資料表4-4）。

表2-6-9 大阪市内河川水域のBODに係る環境基準達成状況

| 河 川 | 測 定 地 点 | B O D (平均値) mg/ℓ | 環 境 基 準 の 達 成 状 況 | | |
|--------------|----------------|------------------------|-------------------|-------|-----|
| | | | 類 型 | m/n 値 | 適 否 |
| 大川及び城北川（全域） | 桜 宮 橋 | 1.9 | C | 0/12 | ○ |
| 堂 島 川（全 域） | 天 神 橋 | 2.9 | C | 0/12 | ○ |
| 土 佐 堀 川（全 域） | 天 神 橋 | 5.6 | C | 7/12 | × |
| 安 治 川（全 域） | 天 保 山 渡 | 1.7 | C | 0/12 | ○ |
| 道 頓 堀 川（全 域） | 大 黒 橋 | 3.0 | C | 1/12 | ○ |
| 尻 無 川（全 域） | 碁 兵 衛 渡 | 2.5 | C | 0/12 | ○ |
| 木 津 川（全 域） | 千 本 松 渡 | 2.7 | C | 0/12 | ○ |
| 住 吉 川（全 域） | 住 之 江 大 橋 | 5.0 | C | 4/12 | × |
| 六 軒 家 川（全 域） | 春 日 出 橋 | 2.2 | C | 0/12 | ○ |
| 正 蓮 寺 川（全 域） | 北港大橋下流 700m | 2.2 | C | 0/12 | ○ |
| 木津川運河（全 域） | 船 町 渡 | 2.2 | C | 0/12 | ○ |

図2-6-6 大阪市内河川水域の水質測定地点及びBOD年平均値の推移



(5) 大和川水域

ア 水域の概況

淀川とともに大阪の代表的河川である大和川は、奈良盆地の東南部に端を発し、奈良県下の諸河川を合して大阪平野に流入し、石川、東除川、西除川等の支川を合して大阪湾に注いでいる。

イ 水質の現況

(7) 健康項目については、今井戸川の大和川合流直前でトリクロロエチレンが、0.063 mg/ℓ (m/n=1/4) 検出されたが、その他の項目はすべての測定地点で環境基準等を達成している。

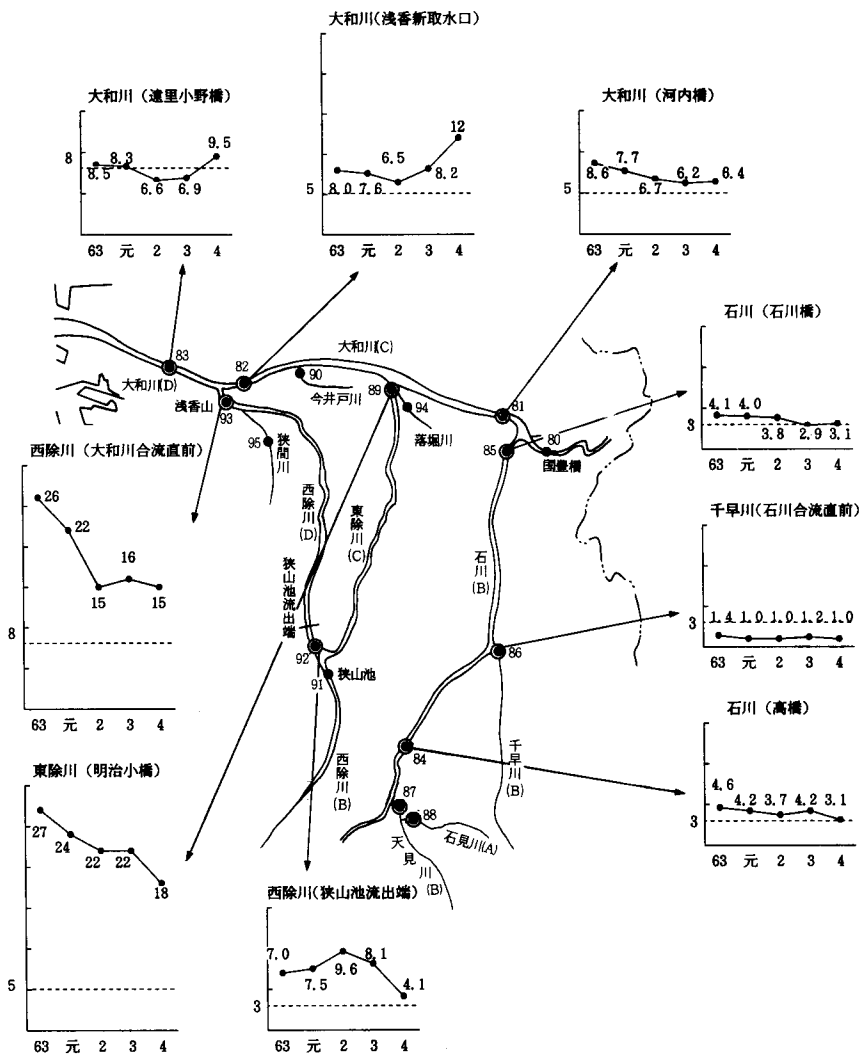
(4) 生活環境項目のうちBODについてみると、大和川本川では、平成4年度は流量の低下等から悪化しており環境基準は依然達成していない。

支川については、千早川（石川合流直前）及び石見川（新高野橋）で環境基準を達成しているが、他の支川は改善の傾向がみられるものの、いずれも環境基準を達成していない。（表2-6-10、図2-6-7、巻末資料表4-5）

表2-6-10 大和川水域のBODに係る環境基準達成状況

| 河 川 | 測 定 地 点 | B O D (平均値) mg/ℓ | 環 境 基 準 の 達 成 状 況 | | | |
|--------------------|---------|------------------------|-------------------|-------|---|---|
| | | | 類 型 | m/n値 | 適 | 否 |
| 大和川中流（奈良県界から浅香山まで） | 河 内 橋 | 6.4 | C | 6/12 | × | × |
| | 浅香新取水口 | 12 | | 12/12 | × | |
| 大和川下流（浅香山より下流） | 遠里小野橋 | 9.5 | D | 7/12 | × | |
| 石 川（全 域） | 高 橋 | 3.1 | B | 5/12 | × | × |
| | 石 川 橋 | 3.1 | | 5/12 | × | |
| 東 除 川（全 域） | 明 治 小 橋 | 18 | C | 12/12 | × | |
| 西除川(1)（狭山池流出端より上流） | 狭山池流出端 | 4.1 | B | 10/12 | × | |
| 西除川(2)（狭山池流出端より下流） | 大和川合流直前 | 15 | D | 12/12 | × | |
| 千 早 川（全 域） | 石川合流直前 | 1.0 | B | 0/12 | ○ | |
| 天 見 川（全 域） | 新 喜 多 橋 | 3.0 | B | 5/12 | × | |
| 石 見 川（全 域） | 新 高 野 橋 | 0.9 | A | 1/12 | ○ | |

図2-6-7 大和川水域の水質測定地点及びBOD年平均値の推移



(6) 泉州諸河川水域

ア 水域の概況

泉州諸河川水域における河川は、和泉葛城山地に源を發して直接大阪湾に注ぐ中小の単独河川が多く、流量の変動が大きい。これらの河口付近をみると、北部には堺・泉北臨海工業地帯をひかえ、南部には漁港や舟だまりがあり、また、夏季には二色の浜、樽井、箱作及び淡輪において海水浴場が開設されている。

イ 水質の現況

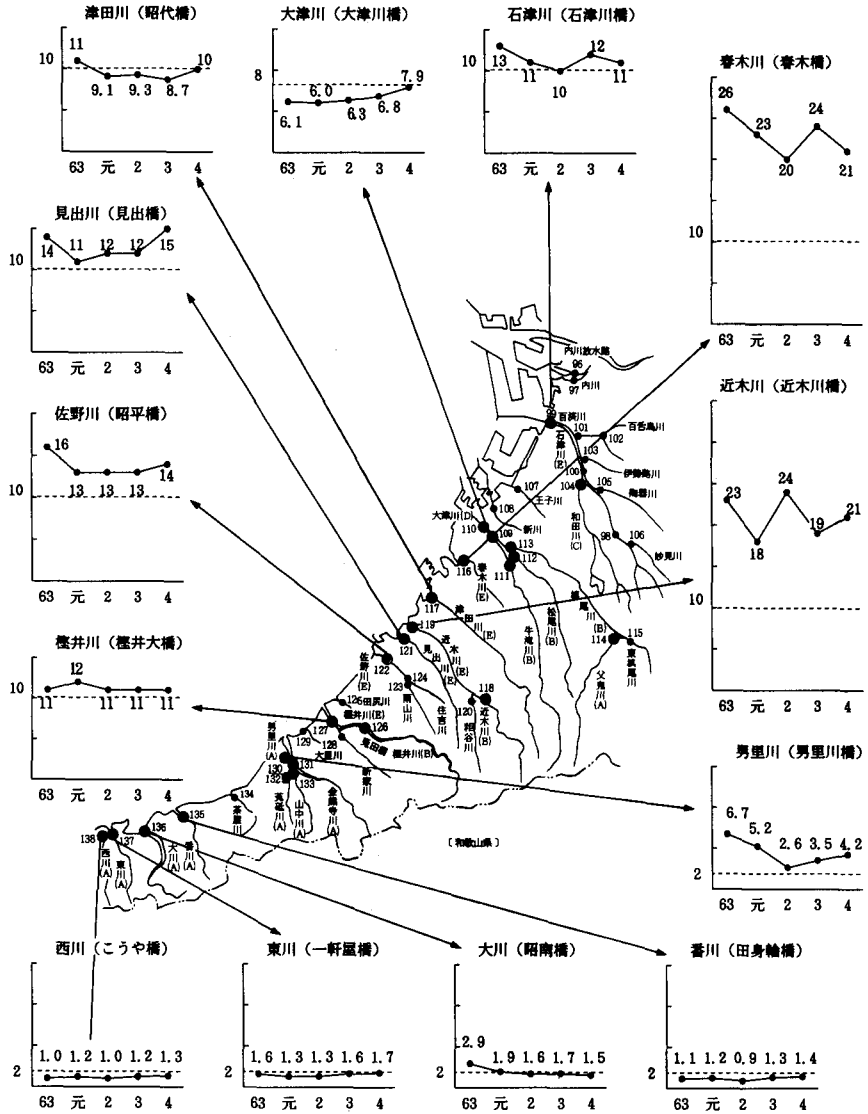
(7) 健康項目については、伊勢路川の泉北2号線前でテトラクロロエチレンが0.022mg/ℓ (m/n=1/4)、また近木川下流の近木川橋でクロム(6価)が0.06mg/ℓ (m/n=1/12)検出されたが、その他の項目はすべての測定地点で環境基準等を達成している。

(4) 生活環境項目のうち、BODについてみると、ほぼ横ばいの傾向にあり、5河川水域(父鬼川、番川、大川、東川、西川)で環境基準を達成している(表2-6-11、図2-6-8、巻末資料表4-6)。

表2-6-11 泉州諸河川水域のBODに係る環境基準達成状況

| 河 川 | 測定地点 | B O D (平均値) mg/ℓ | 環境基準の達成状況 | | |
|----------------------|---------|------------------------|-----------|-------|-----|
| | | | 類型 | m/n値 | 適 否 |
| 石 津 川 (全 域) | 石 津 川 橋 | 11 | E | 4/12 | × |
| 和 田 川 (全 域) | 小野々井橋 | 6.8 | C | 8/12 | × |
| 大津川上流(泉大津市高津取水口より上流) | 高津取水口 | 7.1 | B | 12/12 | × |
| 大津川下流(泉大津市高津取水口より下流) | 大津川橋 | 7.9 | D | 4/12 | × |
| 牛 滝 川 (全 域) | 高 橋 | 6.0 | B | 11/12 | × |
| 松 尾 川 (全 域) | 新 緑 田 橋 | 8.6 | B | 12/12 | × |
| 横 尾 川 (全 域) | 繁 和 橋 | 6.6 | B | 12/12 | × |
| 父 鬼 川 (全 域) | 神 田 橋 | 1.7 | A | 3/12 | ○ |
| 春 木 川 (全 域) | 春 木 橋 | 21 | E | 12/12 | × |
| 津 田 川 (全 域) | 昭 代 橋 | 10 | E | 5/12 | × |
| 近木川上流(稲谷川合流点より上流) | 厄 除 橋 | 3.2 | B | 4/12 | × |
| 近木川下流(稲谷川合流点より下流) | 近 木 川 橋 | 21 | E | 7/12 | × |
| 見 出 川 (全 域) | 見 出 橋 | 15 | E | 8/12 | × |
| 佐 野 川 (全 域) | 昭 平 橋 | 14 | E | 8/12 | × |
| 樫井川上流(兔田橋より上流) | 兔 田 橋 | 2.6 | B | 4/12 | × |
| 樫井川下流(兔田橋より下流) | 樫 井 大 橋 | 11 | E | 7/12 | × |
| 男 里 川 (全 域) | 男 里 川 橋 | 4.2 | A | 9/12 | × |
| 山 中 川 (全 域) | 東 打 合 橋 | 2.1 | A | 6/12 | × |
| 菟 砥 川 (全 域) | 西 打 合 橋 | 2.7 | A | 7/12 | × |
| 金 熊 寺 川 (全 域) | 男 里 橋 | 2.2 | A | 6/12 | × |
| 番 川 (全 域) | 田 身 輪 橋 | 1.4 | A | 2/12 | ○ |
| 大 川 (全 域) | 昭 南 橋 | 1.5 | A | 3/12 | ○ |
| 東 川 (全 域) | 一 軒 屋 橋 | 1.7 | A | 3/12 | ○ |
| 西 川 (全 域) | こ う や 橋 | 1.3 | A | 1/12 | ○ |

図2-6-8 泉州諸河川水域の水質測定地点及びBOD年平均値の推移

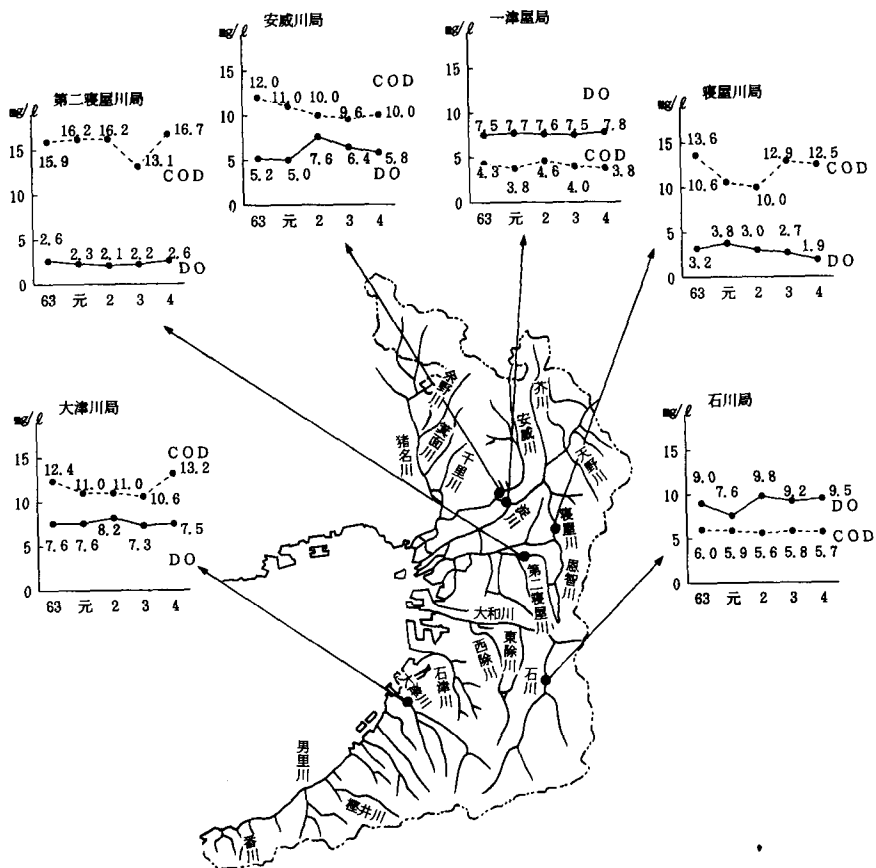


3 河川水質自動観測局における水質測定結果

平成4年度は、一津屋（淀川）、安威川、寝屋川、第二寝屋川、大津川及び石川の計6局の水質自動観測局において、河川水質の連続測定を行った（第3節第6・2「水質自動観測局による監視・測定」参照）。

COD及びDO濃度は、全般的に横ばいの傾向にある（図2-6-9、巻末資料表4-8）。

図2-6-9 COD、DO濃度（年平均値）の推移

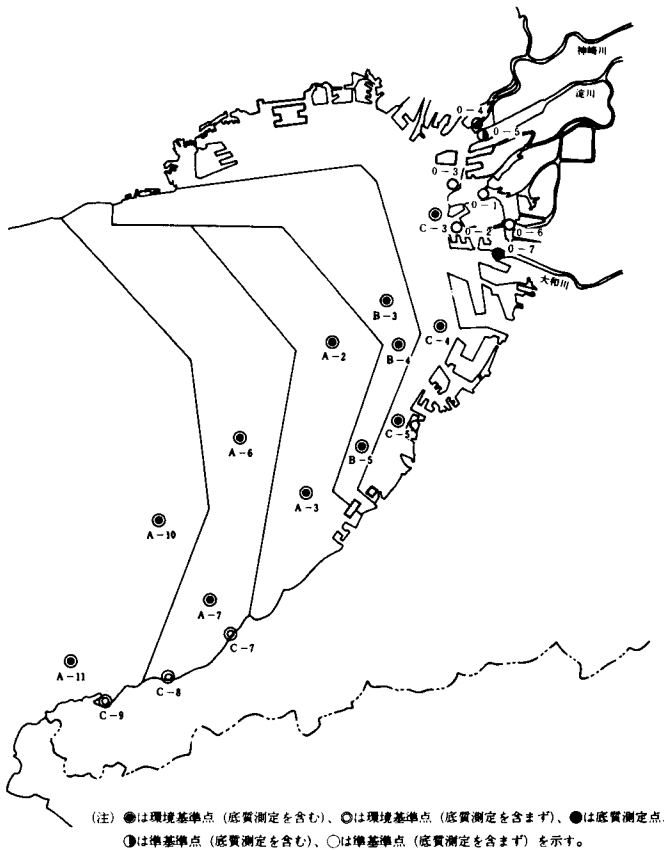


第2 大阪湾の汚濁状況

大阪湾の水質の状況については、環境基準点15地点及び大阪市地先海域の準基準点6地点で調査しており、環境基準点のうち港内3地点を除く12地点では、底層の水質調査も実施している。

また、大阪湾の底質の状況については、15地点で底質調査している(図2-6-10)。

図2-6-10 大阪湾の測定地点図(平成4年度)



1 水質の状況

健康項目については、すべての測定地点で環境基準及び水質環境目標を達成している。

生活環境項目については、海域の代表的な汚濁指標である化学的酸素要求量（COD）をみると、表層では、C海域で環境基準を達成しているが、A、B海域では環境基準を達成していない。底層では、B、C海域で環境基準を達成しているが、A海域では環境基準を達成していない（表2-6-12、巻末資料表4-9）。

表層における環境基準の達成地点の割合は、大阪湾全体で、前年度の53.3%から平成4年度は60.0%と増加した。（表2-6-13）。

表2-6-12 大阪湾水域のCODに係る環境基準達成状況

| 水域名 | 測定地点 | 類 型 | 表 層 | | | 底 層 | | | 全 層 平 均 | | |
|--|---|--------|--|------|--------|----------------------|------|--------|----------------------|------|--------|
| | | | COD (平均値) mg/l | m/n値 | 達 否 | COD (平均値) mg/l | m/n値 | 達 否 | COD (平均値) mg/l | m/n値 | 達 否 |
| A海域 | A-2 E 135° 18' 24" N 34° 31' 42" | A | 2.6 | 8/12 | × | 1.8 | 3/12 | ○ | 2.2 | 9/12 | × |
| | A-3 E 135° 17' 24" N 34° 25' 48" | | 2.4 | 8/12 | × | 2.0 | 5/12 | × | 2.2 | 8/12 | × |
| | A-6 E 135° 14' 30" N 34° 28' 18" | | 2.4 | 7/12 | × | 1.8 | 3/12 | ○ | 2.1 | 7/12 | × |
| | A-7 E 135° 13' 00" N 34° 22' 24" | | 2.1 | 7/12 | × | 2.0 | 3/12 | ○ | 2.1 | 6/12 | × |
| | A-10 E 135° 10' 30" N 34° 25' 24" | | 2.2 | 5/12 | × | 1.7 | 2/12 | ○ | 2.0 | 4/12 | × |
| | A-11 E 135° 06' 48" N 34° 20' 18" | | 1.8 | 2/12 | ○ | 1.6 | 0/12 | ○ | 1.7 | 1/12 | ○ |
| | B海域 | | B-3 E 135° 21' 06" N 34° 35' 00" | B | 2.5 | 3/12 | ○ | 2.0 | 0/12 | ○ | 2.3 |
| B-4 E 135° 21' 18" N 34° 31' 36" | 3.1 | 5/12 | × | | 1.9 | 0/12 | ○ | 2.5 | 3/12 | ○ | |
| B-5 E 135° 19' 00" N 34° 27' 48" | 2.5 | 2/12 | ○ | | 1.9 | 0/12 | ○ | 2.2 | 1/12 | ○ | |
| C海域 | C-3 E 135° 23' 15" N 34° 37' 46" | C | 3.3 | 0/12 | ○ | 1.9 | 0/12 | ○ | 2.6 | 0/12 | ○ |
| | C-4 E 135° 23' 42" N 34° 33' 30" | | 2.7 | 0/12 | ○ | 2.1 | 0/12 | ○ | 2.4 | 0/12 | ○ |
| | C-5 E 135° 21' 48" N 34° 29' 30" | | 3.1 | 1/12 | ○ | 1.9 | 0/12 | ○ | 2.5 | 0/12 | ○ |
| 尾崎港 | C-7 尾崎港内 | C | 2.3 | 0/12 | ○ | - | - | - | - | - | - |
| 淡輪港 | C-8 淡輪港内 | C | 2.0 | 0/12 | ○ | - | - | - | - | - | - |
| 深日港 | C-9 深日港内 | C | 2.0 | 0/12 | ○ | - | - | - | - | - | - |

(注) 1 達否判定は大阪府測定点のみで行った。

2 表層とは、海面下1m層、底層とは、水深20m未満の場合は海底面上2m層、水深20m以上の場合は海底面上5m層をいう。

表 2-6-13 大阪湾の環境基準 (COD) の達成状況 (表層)

| 年度 項目 類 型 (基準値 mg/l) | 昭和 63 | | 平成元 | | 2 | | 3 | | 4 | |
|----------------------------------|----------------|--------------|-----------------|--------------|----------------|--------------|----------------|--------------|----------------|--------------|
| | 環境基準 | 達成地点数 (%) | 環境基準 | 達成地点数 (%) | 環境基準 | 達成地点数 (%) | 環境基準 | 達成地点数 (%) | 環境基準 | 達成地点数 (%) |
| A (2) | $\frac{0}{6}$ | 0 | $\frac{1}{6}$ | 16.7 | $\frac{0}{6}$ | 0 | $\frac{0}{6}$ | 0 | $\frac{1}{6}$ | 16.7 |
| B (3) | $\frac{0}{3}$ | 0 | $\frac{3}{3}$ | 100 | $\frac{0}{3}$ | 0 | $\frac{2}{3}$ | 66.7 | $\frac{2}{3}$ | 66.7 |
| C (8) | $\frac{6}{6}$ | 100 | $\frac{6}{6}$ | 100 | $\frac{6}{6}$ | 100 | $\frac{6}{6}$ | 100 | $\frac{6}{6}$ | 100 |
| 合計 | $\frac{6}{15}$ | 40.0 | $\frac{10}{15}$ | 66.7 | $\frac{6}{15}$ | 40.0 | $\frac{8}{15}$ | 53.3 | $\frac{9}{15}$ | 60.0 |

大阪湾内における表層のCOD濃度分布は、湾奥部ほど高くなる傾向を示している(図2-6-11~12)。海域別年平均値は、A海域2.3mg/l、B海域2.7mg/l、C海域(港内3地点を除く)3.0mg/lである(図2-6-11~12)。

また、大阪湾全体でみると、CODの年平均値は、表層、底層とも、平成4年度はわずかに改善した(図2-6-13)。

図 2-6-11 大阪湾のCOD濃度分布 (年平均値)

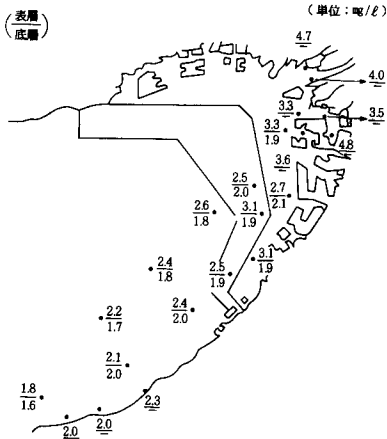


図 2-6-12 大阪湾のCOD濃度分布 (75%水質値)

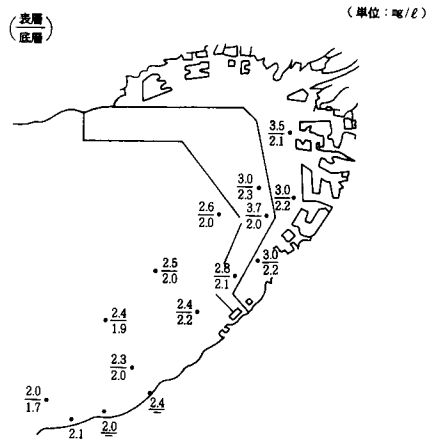
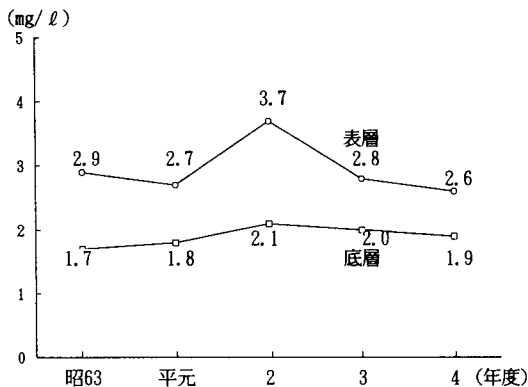


図 2-6-13 大阪湾のCOD (年平均値) の推移



(注) 環境基準点15地点のうち港内3地点 (C-7, C-8, C-9) を除く12地点の平均値。以下図2-6-18まで同じ。

透明度については、A海域4.7 m、B海域4.1 m、C海域3.5 mで、表層のCODと同様に湾奥部ほど悪くなる傾向を示している (図2-6-14)。

また経年変化では、透明度はやや改善したが、クロロフィルaの濃度では上昇がみられた (図2-6-15~16)。

図 2-6-14 大阪湾の透明度分布
(単位: m)

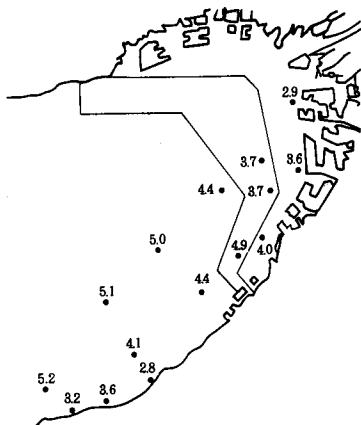


図 2-6-15 大阪湾の透明度
(年平均値) の推移

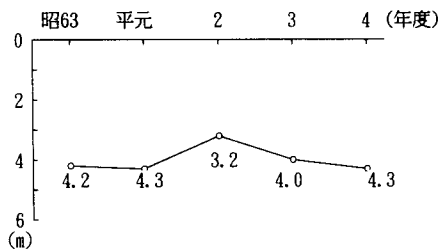
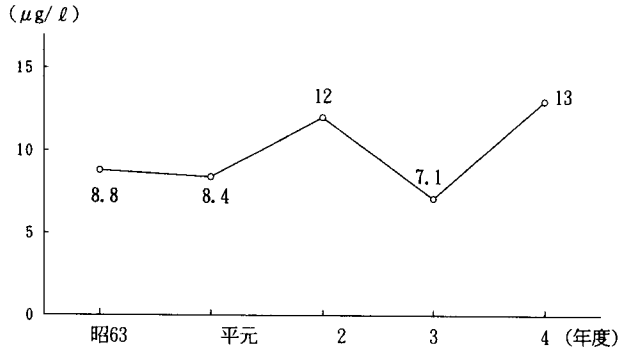


図2-6-16 大阪湾のクロロフィルa (年平均値) の推移



富栄養化の要因物質である窒素・リンの平成4年度の測定結果をみると、窒素は、表層が0.75mg/l、底層が0.41mg/l、リンは、表層が0.059mg/l、底層が0.042mg/lとなっており、依然赤潮の発生が確認されるなど、富栄養化の状態が続いている(図2-6-17~18)。なお、大阪湾における赤潮の発生は、平成4年は22件が確認されている(表2-6-14)。

また、府の定めている特殊項目等に係る調査結果は巻末資料表4-10のとおりである。

図2-6-17 大阪湾の総窒素 (年平均値) の推移

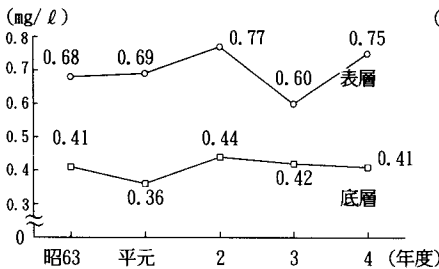


図2-6-18 大阪湾の総リン (年平均値) の推移

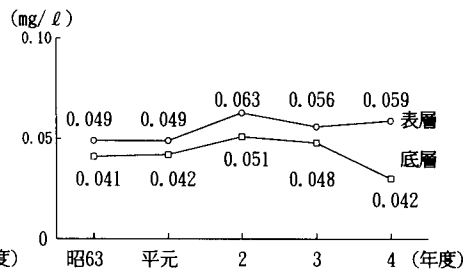


表 2-6-14 大阪湾の赤潮確認件数の推移

| 年 | 月 | | | | | | | | | | | | 計 |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | |
| 昭和 63 | 1 | 0 | 1 | 5 | 5 | 2 | 8 | 3 | 4 | 2 | 0 | 0 | 31 |
| 平成 元 | 1 | 1 | 2 | 2 | 4 | 8 | 5 | 5 | 2 | 3 | 2 | 0 | 35 |
| 2 | 0 | 1 | 1 | 2 | 6 | 3 | 3 | 8 | 4 | 2 | 0 | 0 | 30 |
| 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 4 | 3 | 2 | 4 | 2 | 1 | 2 | 0 | 23 |
| 4 | 1 | 1 | 1 | 4 | 2 | 5 | 2 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 22 |

2 底質の状況

大阪湾の底質調査結果をみると、経年的にはいずれの項目についても著しい変化は認められなかった。底質の暫定除去基準値が定められている総水銀及びPCBについては、総水銀が最高1.1mg/kg（B海域）、PCBが最高0.07mg/kg（C海域）検出されたが、いずれも暫定除去基準値に比べて低濃度であった（巻末資料表4-11）。